

ジャパンスネークセンターの歴史



ジャパンスネークセンターとは、日本蛇族学術研究所(にほんへびぞくがくじゅつけんきゅうしょ)が運営しているへびのどうぶつ園です。昭和 40 年5月に群馬県藪塚本町湯ノ入に毬山利久(もりやま としひさ)さんがへびをたくさんの人に知ってもらうために作りました。日本だけでなく海外のへびの研究、飼い方や咬まれたときの処置や対処方法の研究も進んでいます。

また、海外の人たちを招き、それぞれの国での抗毒に必要な毒へびの飼い方、毒の安全な採取方法なども教えています。今でもへびの見分け方や対処方法から診断・治療など、幅広い問い合わせを年間 500 件ほど受けています。

現在でも「ハブとの共存に関わる総調査事業」を、東大医科学研究所奄美病害動物研究施設との共同で調査を毎年行っています。

最近では警察などに保護された蛇類の引き取り手となっています。たとえば、平成 20 年に東京都原宿でおきた無許可飼育事件の引き取り手となったことで話題となり、警察の捜査員と立ち会い、マンションの部屋で飼育されていた 51 匹の毒蛇をスネークセンターへ運び、飼育しています。

他にも一般の方々が発見したへびや、飼育されていたものが野生化、もしくは捨てられたことにより山などで発見され、スネークセンターに持ち込まれることがあります。ペット自身が飼い主の元から逃げたとしても、元の飼い主が探しに来ることはまずなく、施設内で飼育されて最後を迎えることが多いそうです。

現在もビルマニシキへび、ハブ、ヤマカガシなどのへびを飼育しています。平日には無毒のへびとの触れ合いコーナー、そして不定期ですが休日にハブの採毒実演などを行っています。

館内施設では、野外放飼場にマムシやシマヘビが飼育されていて、檻の上から自然のままの状態、実際のヘビの動きを見ることができます。冬眠時期は野外のヘビは冬眠しますが、熱帯地域育ちのヘビなどは、温度をしっかりと管理された室内で見学できるため、春夏秋冬ヘビを見ることができます。

また、入口の高さ 10 メートルの白蛇観音(はくだかんのん)は、ここで亡くなったヘビたちの供養のために建てられました。(昭和 46 年 10 月に建立)

私たちの身近である藪塚にこのような施設があります。みなさんもいちどは、訪れてみてはいかがでしょうか。